

## 水環境の整備に取りくんで

奈良学園中学校 二年

埜田 寛生

私が所属する科学部生物班は、いろいろな水の環境保全の取りくみを行っています。例えば、ゲンジボタルを再生させるために、川に土のうを置いて流れを蛇行させることで、ホタルが育つ環境を整えて、エサのカワニナを増やして、校内の沢や里池に放流したりしました。また、水質を調べるために、薬品や機械を使った検査も定期的の実施しています。また、池にどんな生物がいるのか採集したりもします。このように、私達は水に対してたくさんの取りくみを行っています。それらの取りくみは、とても苦労します。土のうも、自分たちで作りと、コンクリートの溝へ運び、設置して踏み固めたりと、かなり大変です。池の生物を採集した時も、長くつをはいて池に入っても、中がびしょぬれになったり、池

の底の泥に足がはまってぬけなくなりそうになりしてどれも大変でした。私達がそこまですて水環境の保全への取りくみを行っているのは、水をきれいにすることにより、生息する生物が増えて、奈良学園の自然が豊かになるからだと思います。それ以外にも、私はもとからあるきれいな清流などを守っていくことにより、そこに生息している生物達も守っていけるからだと思います。それらのことから私は水は不思議なものだと思います。なぜならその水次第でそこに生息できる生物が違います。同じ物質である水なのに、環境によつてそこに生息できる生物を大きく左右する水はとても不思議で、価値の大きなものだと思えます。だから

ある特定の生物を守るためには、水の環境を整え、その環境を守っていかねばなりません。人間は水を大事にすることも、汚して放りっぱなしにしておいて壊すこともできません。だからこそ人間は水とその環境を守っていく方を選択すべきです。

一方、池や川に生息する生物は人間から見ると、貴重で美しいものと、みにくく価値のない物に差別されがちです。ですがどれも大切な命です。大切なその命達を守っていくためには、私達はやはり水とその環境を守っていくべきです。そうすれば山や森などの自然も豊かになり、人の心も今以上に豊かになると思います。